

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0193500147		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム 輪西		
所在地	室蘭市みゆき町1丁目7-9		
自己評価作成日	2022年2月14日	評価結果市町村受理日	令和4年4月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kenkohkai.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和4年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年4月、室蘭にて健康会初のグループホームです。ホームの窓からは室蘭のシンボルともいえる製鐵所の雄大な工場を望み、煙突からの煙流を眺め今日の天候を定めています。ホームの入居者様はそれぞれに仕事の役割を持たれ、生活の為のお手伝いをされたり、体操に参加したり、のんびりとテレビをみだりしながら思い思いに過ごされています。『ここに住む皆さんが、我が家のようにくつろげて、その人らしく笑顔で暮らせるように生活を支えます』という理念に基づき日々穏やかに当たり前の暮らしが送れるように個人の計画書に沿って生活を支援しています。コロナ禍になる前は広い駐車場を生かし、地域の方と一緒にBBQやよさこいチーム百花繚乱の演舞披露を観覧するなど楽しい係りが持っていた事もあるので、また行える環境になってほしいと思っています。また、年間研修計画を立てて定期的に虐待防止に向けた意識調査研修を行いスタッフの意識を向上させる取り組みにも力を注いでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、室蘭市東室蘭輪西地区の市街地に位置した2階建て2ユニットのグループホームである。JR輪西駅から徒歩圏内、近隣にドラッグストアなどの商店があり、利便性のよい立地である。法人は、医療法人を母体として、認知症高齢者グループホームを始め、医療系有料老人ホームや訪問看護、訪問介護、通所介護等を旭川市を拠点に札幌市や道内及び首都圏にも展開するなど積極的な高齢者介護の支援をしている。当事業所は、母体が医療法人な為、24時間の医療支援体制構築しており、重度化や終末期にも対応している。広くゆったりとしたリビングの窓からは眺望もよく、利用者が暮らしていた街並みを四季を通じて感じられる。地域との関わりも広がっていたが、新型コロナウイルス感染症対策の為、外出行事なども自粛しており、終息後に向けた地域との活動と認知症高齢者の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各委員会やユニット会議の冒頭に書き込み読み上げることによって理念の浸透に務め居ている 台所等目につくところに掲示している	事業所の理念は、事業所内に掲示して、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、各委員会やユニット会議の都度、理念を読み上げ職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍になってからの交流は出来ていない 町内会の会合にも参加できていない	新型コロナウイルス感染症対策の為、地域との交流は自粛しているが、運営推進会議の参加予定者には、ホーム内行事等の運営状況の報告は行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営委員推進員会議は行うことが出来ていない 積み上げき来たこれまでの交流も生かされていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の定期的に行われていたものは行われていないが施設で行われた行事、事故報告等の報告を行っている	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症対策の為、書面会議で行っており、運営状況の報告は定期的に議事録を運営推進会議の参加予定者へ送付して報告している。	書面会議での運営推進会議も昨年のは前半は人的な都合で開催できなかったため、今後は必ず定期的に開催して、参加者から意見を聞いてサービス向上に活かしていくことを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会が実施されない状況ではあるが地域での入居の申し込みなど色々な面で相談に乗っていただいている	事故報告等は室蘭市へ報告しており、ホームの入居状況は、地域包括支援センターへ毎月報告しており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時のオリエンテーション及び定期的な研修にて身体拘束の正しい知識を習得している	事業所内に身体拘束適正化委員会を設置して、3ヶ月に1回検討会を行っており、法人内でも定期的に研修会を行っており、指針やマニュアルも整備し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会の検討会の議事録や身体拘束をしないケアの研修会等の記録等が混同している為、記録等の整理整頓を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に行われる虐待防止に向けた意識調査研修を行い間違えて回答したスタッフには個別指導を行い徹底した防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの方から制度についての研修講話もあるが実施することができていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は入居時に重要事項説明から始まり一つ一つ管理者からご家族、入居者様に説明する時間を設けている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族様からの意見・要望は管理者および職員へお話しくださいと入居時にも伝えている。 意見があった場合は速やかに対応している	ホーム便りを毎月発行して、家族へ運営状況を報告している。利用者の個別の生活状況は、状況により、都度手紙で報告している。玄関に意見箱を設置しているが、家族からの意見や要望は、殆ど電話連絡や来訪時に聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の場を設け職員全員に意見要望を聞く機会を設けている	ユニット会議は、月1回行っており、各委員会も定期的に開催し、職員がそれぞれ担当して参加している。個人面談は、年2回定期的に実施しており、職員からの意見や提案を聞き運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ラダー評価を行い職員のレベルの把握に努め手当の支給額の算定を行い一人一人が自覚をもって働けるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ラダー評価から個人の不足している部分については個人指導を行っている また、令和3年より定着支援システムが発足され新規入職者に対し個々に合わせた指導体制を導入している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	認知症協会のWeb研修等に参加し、同業者との意見の交換等を行いサービスの向上に務めている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接不安要因や要望等をお伺い受け止めるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から入居することについては遠慮なく質問して下さるようにお伝えし不安要因や要望等をお話しいただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様から直接不安要因や要望等をお伺いし状況にあったサービスが受けられるようにケアマネージャーとも話し合い緊急性にも配慮しながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における掃除・洗濯・調理等に参加していただき職員との関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流がコロナ禍の為に思うように面会できなかったり外出もままならない状態ですが、ご家族あてに手紙を書くなどで絆を絶たないように務めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話は気軽に掛けたりもったりできるようにしている お出かけについてはコロナ禍の為見合わせている	新型コロナウイルス感染症対策の為、外出は自粛している。訪問理美容などは2ヶ月に1回行っているが、その他は電話連絡等で関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業と一緒に家事を行っている為交流が生まれお互い支え合って過ごしてる 重度の方はスタッフが対応し孤立しない様かわりを持っている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も街中で合えばお声を掛けている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意志が伝えられる方には要望や意向を尋ね時には家族様をお願いするなど本人の気持ちを大切にしている	平均介護度が要介護2程度な為、意思表示できる利用者が多く、本人の要望や意向を尋ねながら把握に努めている。困難な場合は家族に聞くなどして対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣を受け入れ、慣れ親しんだ家具や普段使いの食器類を持ち込んでいただくなどしている、お話しする中で情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノート・アセスメントに情報を書き落とし現状の把握をスタッフ内で共有できるように務めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて個人が知りえた情報を共有し次の介護計画に活かし実践していく	居室毎の担当者がEシートを作成し、カンファレンスを月1回行い、モニタリングで課題を検討して、本人や家族からの意見や要望を含めて、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録や申し送りをを行い情報を共有し実践し介護計画の見直しに活かされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本通院等はご家族様に対応してもらっているが状況に応じてスタッフが対応するなど柔軟な対応をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍になる前はボランティアの方に来ていただいたりしていた、地域の行事にも参加出来ていたが現在は行っていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様の希望を優先し、かかりつけ医と以前からの主治医との連携を取っている	入居前からのかかりつけ医の受診は家族が同行している。協力医療機関は月1回の往診で、看取りの時は24時間対応となっている。訪問看護は週1回で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の連携と訪問看護ステーションへの相談を行い利用者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時は情報収取に努め医師・看護師・ケースワーカー等の説明を受けご家族様と共有している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時には説明を行い、重度化した場合の話し合いの時間を設けている。実際に看取りになった場合は改めてカンファレンスを行い家族・主治医との話し合いを持ち意向の確認を行っている	入居契約時に重度化や終末期の対応について、説明し同意を得ている。重度化した場合は、本人や家族と主治医・事業所が打ち合わせして、意向を確認し、看取りの場合は意向確認書を交わして、主治医と連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	どのスタッフでも救急時に対応できるようシュミレーションされたものを掲示している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は夜間を想定し避難訓練を年2回以上行っている。また地震・津波等の災害を想定した訓練も行っている	避難訓練は、火災や地震を想定し、年2回行っている。新型コロナウイルス感染症対策の為、地域との連携はできないが、備蓄や備品等も整備して、災害対策を行っている。	定期的に避難訓練を実施して、災害対策を行っているが、自然災害対策と感染症対策のBCPの作成をR6年3月までに作成し、実際に訓練を行って完成させることを期待する。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しトイレ誘導・失禁時の更衣を他者に気づかれないような配慮するように支援している	人格の尊重とプライバシーについては、法人内の研修会で、定期的に接遇を学んでおり、事業所内でも会議等で接遇の指導を行って対応している。	法人内の定期的な研修会や事業所内の勉強会でも接遇やスピーチロックについて、指導しているが、今後も継続して定期的に学ぶ機会を設け、指導することを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人に合わせた声掛け、混乱しやすいのでわかりやすい言葉でゆっくりと話し自己決定がしやすい環境を整える。自分で考える時間を作り焦らせないように支援する		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	都度気持ちを汲み取り、その方のペースで過ごせるよう穏やかな気持ちで取り組み支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個人に合わせて起床時の洗顔後に化粧水を使われたりしている。散髪はグループホームにて理美容室の出張で行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態みて出来ること出来ないことを職員が見極め手伝ってもらっている。入居者様がふっと口にした言葉も聞き洩らさず食べたいと話された物を提供することもある。食事は全員で食卓を囲んで食べている	食事は外部委託だが、料理が得意な職員がおり評判がよい。利用者は、食事の準備から片付けまで手伝っている。行事食は、感染症対策の為、外食等は自粛しているが、出前の寿司やかつ丼、大晦日には刺身や赤飯、茶碗蒸しなど希望に対応した食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は個別のチェック表を使用し状況の把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に毎食後に口腔ケアの声掛けを行い上手く出来ない方には介助を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し声かけ誘導を行っている本人の羞恥心に配慮した声掛けをし、自尊心を傷つけない様に心掛けている	利用者の排泄パターンは、記録簿から把握し、一人ひとりの仕草や表情を見ながら声掛け誘導し、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿排便を個人記録に落としパターンの把握。排便を促すように冷たい牛乳を摂取して貰ったり繊維質の多い食事をとってもらうよう工夫している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個人に合わせた対応で立位に危険を伴う場合等は職員の二人介助で安全に気持ちよく入浴していただいている	入浴は週2～3回行っている。曜日や時間は決めておらず、希望に合わせて個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールで体操やゲームなどで楽しく過ごしていただき夜間帯はしっかりと安眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬局が管理しているが、いつでも確認できるように個人の薬情をひとまとめにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・片付け・掃除・洗濯などそれぞれ役割を持たれスタッフからの感謝の言葉に達成感を感じられ笑顔で応じてくださっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為外出は控えてもらっている。ご家族との外出も控えてもらっている状態なのでストレスはたまっていると思う	近隣の散歩や外気浴は支援しているが、新型コロナウイルス感染症対策の為、外出行事は自粛している。昨秋にて、ハロウィンで、馴染みの保育園に訪問してお菓子を配るなど楽しみな時もあった。少人数でのドライブなどこれから少しづつ行事を行っていく予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出がままならないことで買い物には行けないお金の使い方も忘れてしまったのではないかと心配している。訪問販売車等で買い物する楽しさを作ってみたい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話のやり取りは出来るようになっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとテレビが見られるようにソファー等を置きくつろげる空間を演出している	共用空間のリビングと食堂は、広くゆったりしており、採光や風通しもよく、季節を感じる飾りつけや行事の写真など楽しい思い出の掲示がある。温度や湿度も管理しており、リビングには大きな窓があり、見晴らしがよく、利用者はゆっくりと寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席は決まっているがお話の為に移動だれたり自由にホールで過ごされることが出来ている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用されているダンス・椅子・毎日使われていたお茶わんやお箸を持ってきてもらっている。仏壇を持参されている方もいる	居室には、収納ロッカーとベットが設置されており、温度や湿度も管理している。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分のお部屋が分かるように表札を付けているトイレ・浴室には目印となるような表示をしようしている		